

平成 28 年度「女子中高生のための情報メディア工房」
実施レポート

2016 年 10 月 1 日
津田塾大学女性研究者支援センター
NPO 法人 CANVAS

〔1〕 目的

津田塾大学女性研究者支援センターでは、情報通信分野で働く女性技術者、研究者が増えるための活動も実施している。このイベントはその一環として、女子中高生に情報通信技術について理解を含め、さらに、情報通信分野の職業につくことに興味をもってもらうことを目的とする。

〔2〕 イベントの特長

実際に働く女性技術者のお話を伺う機会と、プログラミングを経験するワークショップを一日にまとめて提供している。今年は、津田塾大学の小平キャンパスで開催し、女性技術者も津田塾大学卒業生にした。プログラミングを学ぶことに使う機材は大学で所有しているものにした。

〔2〕 イベントの実施状況

イベントは、2016年8月13日に津田塾大学小平キャンパスにおいて実施した。定員15名のところに、今年は37名の応募があった。15名受け付けたが、3名の直前のキャンセルがあり、12名の参加者になった。

実施当日は、予定通りに次のスケジュールで実施した。

- 10:00 開会挨拶
- 10:10 ワークショップ（1） Scratch 入門
- 10:40 休憩
- 10:50 ワークショップ（2） Scratch X 入門
- 11:30 昼食
- 12:30 パネルディスカッション「女性技術者・研究者と語る」
- 13:30 休憩
- 13:45 ワークショップ（3） Kinect 入門
- 14:45 休憩
- 15:00 ワークショップ（4） ペアで作品作り
- 16:30 作品発表会

16:45 閉会挨拶とアンケート記入

17:00 終了

ワークショップ（１）から（３）では、Scratch 入門を解説した後、機能拡張な Scratch, ScratchX を紹介し、ScratchX から Microsoft 社 の Kinect を入力デバイスとして使用する方法を解説した。また、ScratchX で可能になる機能として、音声合成や、Web 上のニュースの取得方法などについても解説した。最後のセッション（４）では、（１）から（３）で教えた機能を自由に使って、未来の部屋で使う何か（ジェスチャで使えるアプリ）を二人一組で作ってもらった。

ワークショップの途中、昼食直後には、津田塾大学を卒業し、情報通信分野で働いている社会人 3 名を招き、情報通信分野の職業についての経緯、中高生へのアドバイス、などについてパネル形式でお話しいただいた。

〔３〕 イベントの実施結果と今後

イベント終了直前に、参加者にアンケートに回答してもらった。多少の例外はあるが、ほとんどの参加者が情報通信技術にポジティブなイメージをもち、情報通信分野の職業につくことに興味をもったと答えている。今後、「より多くの参加者が参加できる」「さまざまなプログラミング経験レベルに対応する」などの改善を行ないつつ、同様のイベントを開催したいと考えている。



写真 1 : ワークショップの講義中の様子



写真2： パネルディスカッションの様子1



写真3： パネルディスカッションの様子2



写真4： ペアプログラミングの様子



写真6： 作品発表会の様子



写真7：最後の集合写真